

(技術名) 沖縄島宜野座産ホンダワラ類の成熟期							
(要約) 本県に分布するホンダワラ類の成熟期を把握するために、ホンダワラ4種類の藻体を水槽内で流水培養した結果、A1・A2型の卵放出期は、9月上旬～11月上旬、A3・A4型の卵放出期は、8月中旬～10月中旬、タマキレバモクの卵放出期は、9月中旬～1月上旬、D型の成熟のピークは、9月上旬～10月下旬であった。							
水産海洋研究センター 海洋資源・養殖班					連絡先	098-994-3593	
部会名	水産業	専門	生理発生	対象	ホンダワラ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

ガラモ場は、魚介類幼稚仔期の生育場等として重要である。近年、全国各地で藻場の減少が問題となっている。藻類への食害圧の強い熱帯性海域である本県では、食害防止網を設置するとホンダワラ類が繁茂するが、規模の拡大は困難であることが報告されている。本研究では他府県海域とは異なる南方系ホンダワラを用いた藻場造成手法を開発するための基礎的知見を得るために、宜野座村海域で採取したホンダワラ類を用いて調査を行う。

[成果の内容・特徴]

1. A1・A2型は、9月上旬～11月上旬、卵放出が行われ、成熟のピークは、9月上旬～10月中旬であった(図1、図2)。
2. A3・A4型は、8月中旬～10月中旬、卵放出が行われ、成熟のピークは、9月下旬～10月上旬で、A1・A2型よりも期間が短かった(図1、図2)。
3. タマキレバモクは、9月中旬～1月上旬、卵放出が行われ、成熟のピークは、10月中旬～11月下旬で、本調査の対象種中最も成熟期間が長かった(図1、図2)。
4. D型は、平成17年度と平成18年度の結果が異なり、成熟期間の特定は困難であったが、成熟のピークは、9月上旬～10月下旬であった(図1、図2)。
5. 本研究対象4種のホンダワラは、卵放出、成熟のピークともに長期に渡っており、温帯性のホンダワラ類の成熟期が2ヶ月未満であることに比べて長いことが分かった。
6. 種類別の平均放出卵数は、A1・A2型が最も多かった(表1)。この放出卵数の多さが、A1・A2型がこのガラモ場の優占種になっている要因のひとつであると思われた。

[成果の活用面・留意点]

1. 適正な採苗時期の把握によって、今後、藻場造成を行う際に役立つ。
2. 採取したガラモ場が異なれば、成熟期間が多少ずれる可能性はある。
3. A1・A2型、A3・A4型は仮の分類であり、今後、別種と判断される可能性もある。

[具体的データ]

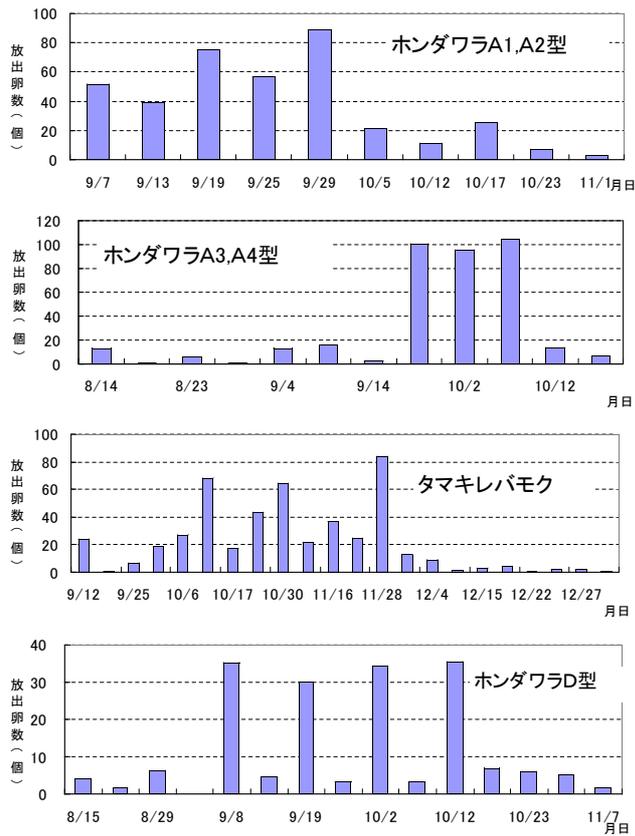


図1 ホンダワラ母藻1g・1日あたりの放出卵数の推移 (2006年)

表1 ホンダワラの種類別放出卵数

種類	卵放出事例	放出卵数 (採卵総数/母藻1g/日)		
		平均	標準偏差	最少~最多
A1, A2型	10	38	29	3~89
A3, A4型	12	31	42	1~104
タマキレバモク	22	22	24	0.4~84
D型	14	13	14	2~36
計	58			

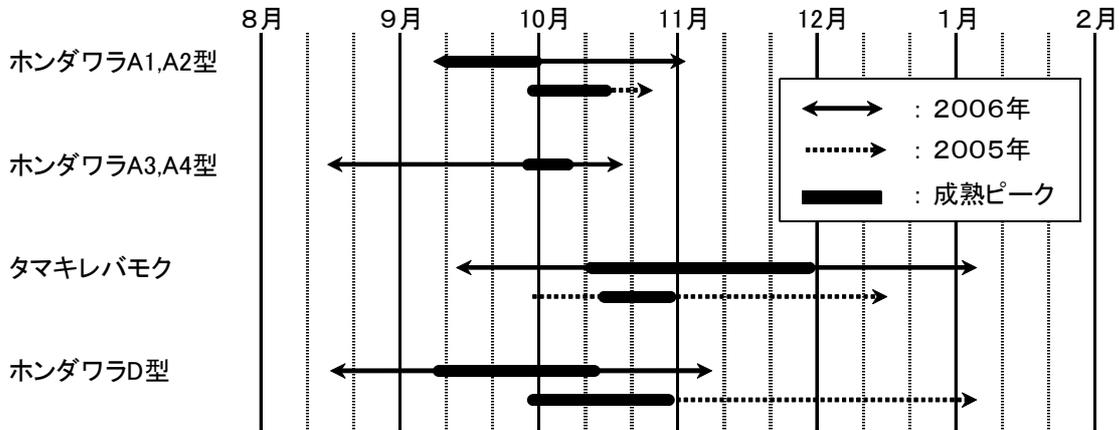


図2 宜野座漁港地先ガラモ場のホンダワラの卵放出期間

[その他]

研究課題名：藻場造成基礎試験

予算区分：県単

研究期間：平成16年～平成18年

研究担当者：玉城 信・須藤裕介・諸見里聰

発表論文等：平成18年度沖縄県水産海洋研究センター事業報告書